

[05_02]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6767958>

出版情報：情報処理教育広報. 5 (2), 1983-01. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



巻 頭 言

——機種選定について——

機種選定委員会委員長 上 田 幾 彦

情報処理教育センターが昭和52年4月に発足し、53年1月から日本電気ACOS600により正式に稼動を開始しました。当時はカードによるバッチ処理が大勢である中で、教育システムを全面的にTSS処理でおこなうことはコペルニクスの転回と言うべき決断であったが、その後の推移を見ると、この決定が誤りでなかったことに安堵と嬉しさを感じます。

しかしながらその後、授業回数、受講者の飛躍的な増大がおこり、毎学期末の待ち時間の増大に悩まされました。また授業演習の内容の多様化と高度化にともなうシステム適応のトラブル等がおこりました。これらに対してはそれぞれに日電ならびにセンターの方々の努力により適切な対策がとられてまいりました。

このような推移で5年が経過し、本年2月将来計画検討小委員会は、根本的な検討の一環として、新しい計算機を選定することが適当である旨、センター長に答申し、センター長はこれを受けて機種選定委員会を発足させ選定作業がはじまりました。

選定の経過について申し上げますと、他大学教育センターの現状も参考にしながら、次期システム要求仕様書の作成をおこない各社に発送、ついで日電、富士通、三菱、日立の各社の協力により、一次提案、各社の説明会、二次提案を経て、各機種のベンチマークテストをおこない、種々の角度から検討ののち新機種を富士通に決定しました。その後学内措置により文系地区にセンターの分室が設置されることになり、機種はFACOM M360(16MB)に決まり、来年5月より正式運転を開始することになりました。

この間新機種の提案を頂いた日本電気、富士通、三菱電機、日立製作所の御協力に心からお礼を申し上げます。ことに日本電気には情報処理教育センター発足以来の絶大の御協力に衷心より感謝を申し上げますとともに、前例のない非情ともいえる機種変更の措置を幾重にもお詫び申し上げます。他方この選定に御苦勞下さいましたセンター職員、選定委員の方々にお礼を申し上げます。

以上のようにまたコペルニクスの転回の機種選定の是非はこれからの経過を見ないとわからないことかも知れませんが、経験豊かな選定委員の方々の慎重且つ広い検討の過程を考えると、必ずや良い結果をもたらすものと信じています。

すでに始まっている情報化社会の激しい変革の嵐は今後いよいよその激しさを加えることでしょう。過去20年の短かいながらも目を見張る変化を延長して未来を考えると、この嵐の社会に及ぼす深刻な影響には空恐しさすら感じます。このような時にあたって、情報処理教育がいかにあるべきかを考えますと、授業演習を通じて出来るだけ多くの学生に情報処理の習熟をさせることが大切であることは申すまでもありませんが、それを超えて更に電算機がもたらす社会の変革についても我々がいかなるフィロソフィーを持つべきかを考えなければならないと思います。